

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674100124		
法人名	医療法人社団 洛和会		
事業所名	洛和グループホーム北花山		
所在地	山科区北花山中道町109-12		
自己評価作成日	平成24年11月28日	評価結果市町村受理日	平成25年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/26/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&jiyosyoCd=2674100124-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成25年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様と共に、家庭菜園を行っている。建物内が狭い分、外の空間を上手に活用し、ベンチを設置するなど、利用者様がゆっくり過ごせる時間(雰囲気)を作っています。
グループホーム北花山は、特に食事の場面に力を入れています。
家庭菜園で採れた野菜を使い、多種類の料理を作り、バランスよく食事を頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「その人らしい生活を支え、それぞれの力が発揮できる場所作りを目指します」と理念に謳い、利用者が出て来る事に注意を払い、利用者の思いを汲み取り日々の支援に活かしています。職員は利用者との関わりの中で、食事の準備や趣味の編み物が出来るようにするなど思いの実現に向けた努力がなされています。法人による研修体制の中での知識の習得と共に、職員間でのチームワークで利用者の持っている力を見つけ支援に繋げる事が結果として職員のスキルアップとなっています。今期、事業所では特に食にこだわる事をテーマに美味しい食事作りに努め、プランターで野菜を育て日々の水やりや収穫を行い、毎日の献立を利用者と考え、出来る事は利用者にも携わってもらいながら食事を楽しんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を元に、ホーム独自の理念を作成し、玄関に掲示している。 また、理念についての研修・勉強会・毎日の唱和をしている。	開設時に職員間で検討の上作られた事業所理念は、その人らしい生活を支え、それぞれの力が発揮できる機会を作ることを謳っています。職員は、利用者の今までの生活の延長に事業所での生活があると位置づけ、継続出来ているかなど会議で検証しながら日々支援しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板の手渡しから、地域の催しに参加している。町内会に参加している。 3年前から行事の一環として餅つき大会や秋祭りをして地域との交流を図っている。	自治会に加入し、地蔵盆や夏祭りに参加したり、事業所前で山車を見るなど楽しんでいます。事業所では餅つき大会や夏祭りに近隣の方々を誘い年々参加者が増えています。散歩で出会った方には挨拶を交わし、認知症サポーター研修に講師として参加するなど交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアサポーター講座の開催など、事業所の特性を活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、町内会長、民生委員、地域包括の職員が参加し利用者の状況報告や、行事イベント等に助言を頂き、次に活かしている。	2ヶ月に一度の会議では、事業所行事や状況を伝え意見交換が行われ、外出行事の行き先や地域の避難場所などの情報提供や、他の事業所との交流の提案などがあり、具体化に繋がっています。会議の日程や議事内容は家族に届け、今後は家族の参加に向けて認知症サポーター研修などを兼ねて行うなど検討されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護事業部の組織として、連絡を取り合っている。	市へは法人の担当者が出向き、情報交換をしています。運営推進会議の議事録を市の窓口に参加し、直接話し合う機会を作り、何かあれば必要な情報交換がなされるように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人として身体拘束の研修がありし、知識・意識の向上に努めている。 各事業所で伝達研修が行われている。	毎年法人による研修があり、事業所では出席者による伝達研修が行われ、職員の理解に繋がっています。言葉遣いで気になるような事があれば、その都度注意をしています。玄関は夜間以外は開放しており、利用者が出掛けたい時には同行するようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人として高齢者虐待の研修がありし、知識・意識の向上に努めている。 各事業所で伝達研修が行われている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として権利擁護の研修があり、知識・意識の向上に努めている。 各事業所で伝達研修が行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、その都度に書面と口頭で説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	京都市の『介護相談員』受け入れや、意見箱を設置している。	法人による満足度アンケートが毎年行われ、要望の収集とフィードバックが行われています。家族の面会時や電話でも意見を聞くようにしていますが、意見は出にくいのが現状です。入浴回数を増やしてほしいという意見などでは職員間で検討し、回数を増やすなど出された意見には速やかに対応するようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで職員の意見や話合う機会を作っている。日々のコミュニケーションからも意見を聞くように努めている。	職員会議では、管理者は意見が出しやすいように配慮しています。行事への提案や利用者への支援に向けた意見や悩みなどが出された場合には、職員間で話し合うなど互いに学び合う機会を作っています。また個別のヒアリングや法人によるアンケートも意見を表す機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期に一度の『自己申告書』や、その都度確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間研修計画が立っている。研修の内容を職員に配布し受講を勧めている。外部の研修も参加しやすい体制である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加している。 研修・交流会等に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傍に寄り添う機会を増やし、不安を解消し、関係を築くように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすい環境作りを心がけ、面会時に安心して頂けるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談員と管理者で面接を行い、本人と家族の思いを傾聴し、支援の見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出勤時の『ただいま』と、退勤時の『行ってきます』。 日常生活全般を利用者と共に行うことにより、料理の味付けなど利用者に教えてもらい、お互い支えあうような関係でいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	都度相談をし、状況を共有する事で、本人を支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人・知人の面会など、本人の関係が途切れないように支援している。	友人の来訪がある時等は、日々の様子を伝えたり事業所行事に誘ったり、友好の継続となっています。行き慣れた店や百貨店等希望に沿って出かけています。利用者が常々語られる、墓参りや昔住んでいた所など、家族の協力を得て出掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士での部屋の行き来、一緒に過ごす事により、職員とはまた違う関係を築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した方でも、郵便物の転送や、その後の付き合い(経過)がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションや家族からの情報から、本人の意向を汲み取るように勤め、本人の本意を尊重している。	入居時には家族や利用者の生活歴や趣味楽しみ事などを聞き、記録することで意向の把握に繋がっています。入居後の生活の中で、出された意見や表情などを記録し利用者の日々の支援が意向に沿ったものになるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションや家族からの情報から、本人の意向を汲み取るように勤めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションや家族からの情報から、本人の意向を汲み取るように勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族がケアカンファレンスに参加し、共にアイデアを出し合いケアプランを作成している。 当日参加出来ない職員は、事前に意見を出し合っている。	介護計画は事前に聞いた利用者家族からの要望を基にたてられています。日々の支援の中でモニタリングを行い、状況の変化があれば見直し、6ヶ月ごとの定期的な見直しに向けた会議では全職員の声を反映し担当者がまとめ介護計画をは立てています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや結果は、ケア記録に書いている。 管理日誌や連絡帳を利用して、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急に個別で外出したり等、家族と調整して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区役所との関わりから、地域すこやか学級の参加など、本人に合った支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人及び家族に決めてもらっている。 かかりつけ医と適宜連絡を取り合っている。	入居に当たってかかりつけ医の意向を聞いています。医師への受診は家族に依頼し、事業所での協力医の往診や訪問看護による日々の健康管理が行われています。24時間電話やファックスで連絡が出来る体制が整っています。歯科の週1回の往診や眼科精神科の受診等利用者の意向に沿って適宜行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	随時、看護師とは相談しあい、情報の共有化・ケアに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、随時病院関係者と連絡を取りあい、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明を行っている。 重度化した際に、主治医・看護師や家族との話し合いを設けている。	入居時に看取りの指針を説明し、利用者や家族の理解を得るようにしています。利用者の重度化の過程で、家族や利用者に意向を再確認し、医師や看護師を交え話し合っています。家族の意向を受けて、看取りの経験も過去にはあり、今後も医師との連携や、必要に応じて職員の勉強会の具体化を事業所として考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人として研修があり、参加・伝達研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い、消防署などの関係機関と連絡・調整を図っている。	2ヶ月に一度事業所としての自主訓練が行われ、年2回は消防署が立ち会って訓練が行われています。初期消火や通報確認、夜間想定避難訓練等様々な想定のもとに行われています。家族には新聞で、地域の方々には事前に訓練の開催を伝えていきます。	地域の防災訓練の状況を知ってもらうために、地域の方々に事業所の訓練へ参加の依頼をされては如何でしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時と年に一度のマナー研修があり、丁寧な言葉づかいを心掛けている。	年1度はマナー研修が法人であり、受講の中で職員は理解を深めています。丁寧な言葉遣いを旨とし、特に排泄などでは周囲を配慮した声かけを心がけています。万が一不適切な対応があればその都度注意し、会議などでどうするか等議論するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、本人が決定しやすいような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールは、大体しか決まっておらず、その日の体調や気分により変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服選び等は、利用者と共に行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力に合わせて、調理や盛り付け、配膳などを行っている。	食材は近隣のスーパーから届き、在庫を見ながら利用者と日々の献立を決めています。不足の食材は買い物に出かけ、プランターの野菜を活用する時もあり、利用者と共に切ったり盛り付けや配膳等を一緒にしています。またおやつ作りや外食、出前を取るなど作ることや食べる事への意欲を大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別で食事摂取量や、必要に応じて水分摂取量などを記録している。 献立は、利用者と一緒に考えながら、食事のバランスや量を確保している。また、利用者によって、食べやすい大きさに切るなど、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの介助と、週に一回の歯科衛生士によるケアで、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を付けて、本人の排泄パターンを把握する事により、本人の負担を軽減できるような支援を行っている。	排泄は自立の方も居ますが、利用者の排泄パターンを知ることで失敗を減らすようにしています。会議で職員間で検討しおむつ状態から紙パンツに変更された方も居、皮膚の改善に繋がる等の事例も生まれています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを記録し、本人の排泄パターンを調査する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日等は決まっておらず、外出予定やその他の事情に考慮して、入浴していただく支援を行っている。希望に合わせてゆっくり入浴して頂いている。	日々入浴の準備は行われており、週3日をめぐりに利用者の希望に合わせて入浴の支援が行われています。朝からの希望にも応じ、夕方や毎日などの要望には出来る限り対応する方向で検討しています。拒否傾向にある方には時間を空けたり、日を変えたりしています。ゆず湯で季節感を出したり、好みの石鹸やシャンプー利用をされている利用者も居られます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態をみて、昼寝を進めてみたり、記録に睡眠の時間帯を記入し対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の説明を、確認するシステムを構築し、用途や副作用・処方量等の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々で、それぞれ得意な事で活躍出来る場面を作れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	マンツーマンで個別対応に努め、買い物や散歩に行くように心がけている。	天気が良ければ散歩や食材の買い物に出掛け、年間の外出計画を立て個別の支援も行っています。初詣や、個々の買い物、昼食や喫茶、動物園や紅葉等の行事等でかける機会を作り、個別の要望に沿った外出支援も大切に考えられています。	

洛和グループホーム 北花山

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々の買い物等のシーンで、個別で買い物をしたりしている。 家族に了解を得て、小額なら自己管理されている利用者も居る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、自由に使える状況である。 当然、込み入った内容の電話であれば、自室で連絡する事も可能です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は一般家庭にある物を使用している。 雛人形や七夕・クリスマスなど、四季折々の飾りでレイアウトしている。	玄関周りのプランターに花や野菜を植え楽しんでいます。共用部分には利用者と共に作られたちぎり絵や、習字作品などを掲示しています。椅子やソファの設置で気分転換や居場所作りを行っています。空調や温湿度の管理で、少しでも居心地良い空間になるよう心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングが狭いので、独りになれる様なスペースはありませんが、気の合う利用者同士が、自然と同じテーブルに着く様な配慮を心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた家具や小物を持参していただく事により、出来る限り自宅の雰囲気を出し、その人らしい空間になっている。 環境の変化に配慮している。	利用者や家族と相談しながら居室を整えるようにしています。備え付けのベッドを中心に、利用者の使い慣れた筆筒や鏡台などが設置され、花や写真等の飾り物は季節に応じた設えとなるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所、各居室に表札を付け分かりやすく工夫し、GHが利用者の家である事を表現する工夫をしている。		